

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	様式1（特別支援学校）
A：十分達成できている	
B：おおむね達成できている	
C：やや不十分である	
D：不十分である	

学校名	佐賀県立ろう学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、行事については中止や変更を余儀なくされたものもあったが、学習指導、生徒指導及び進路指導については、実施形態を工夫することで概ね満足できる効果を得られた。いじめについては、早期の対応により、適切な対応ができた。連絡帳を使って家庭と連携をとったり、寄宿舎との情報共有を密に行うなど、児童生徒を丁寧に見ていくことができた。センター的機能としては、研修会の外部公開はできなかったが、電話やメールによる発信や巡回相談による支援を強化した。</p> <p>・今年度コロナ禍の状況において、新しくリモート交流等に取り組んだり、行事や会議等を削減したりした。次年度は、それらの検証に基づき、研究・研修、教科指導、進路学習、本校の情報発信及び地域支援の充実に取り組んでいく。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	県内唯一の聴覚障害教育の学校として、幼児及び児童生徒一人一人の個性や能力、教育的ニーズに応じて、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準ずる教育を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、将来、自立し社会参加できる力を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>(1)聴覚障害教育の専門性の向上を図るための研修の充実及び校内研究の推進</p> <p>(2)幼児・児童・生徒一人一人のきこえの状態に応じたコミュニケーション力の育成</p> <p>(3)発達段階、障害特性を考慮した「分かる授業」の推進</p> <p>(4)学部間連携による各教科の系統的指導の深化</p> <p>(5)地域のニーズに応える聴覚障害教育のセンター的機能の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○年間3回(毎学期)の保護者との面談を通して個別の指導計画等を学期毎に作成し、目標達成を図る。(各学部)	・保護者と連携し、個別の指導計画等の作成、評価に係る環境整備をする。また幼児児童生徒の授業内容の理解度や授業への「わがこ」を把握し、適切な目標を設定する。(各学部・教務)	B	・1学期末までに全校幼児児童生徒とその保護者への面談を全員に行い、個別の教育支援計画を作成し、情報共有した。 ・保護者と面談を2回以上実施し、今年度の指導について確認した。就業体験も一緒に見学してもらった進路決定に向けても、連携が図れた。 ・指導計画は前担任で原案を作成し、本年度の担任に引き継ぐようになっている。担任は児童の実態を詳しく把握し、変更・つけ加えなどをし、実態に応じた目標を設定して、諸計画を実施している。児童の実態は学部会で定期的に共通理解を図っている。	A	(幼)保護者との情報交換を密にし、理解度や願いを共有し、日々の保育に活かすことができた。 (小)保護者と連携して作成した個別の指導計画を基に授業を計画することで、目標が共有でき、実態に応じた見直しをもって計画的に授業を展開することができた。 (中)実態に応じた目標を設定し、学部で共通理解を図ったことで、各教科や個別指導の授業でも、目標を意識した指導ができた。 (高)1学期から保護者と連携を密にし、進路について話し合いながら決めていくことができた。移行支援会議にも参加していただき、卒業後の仕事や生活について確認することができた。 (教)保護者と連携しながら個別の指導計画等を作成し、指導に活かすことができた。	
		○卒業時の進路決定率100%を目指す。	・就業体験学習の体験実習の充実を図る。 ・関係機関との連携を強化する。 ・進路指導やキャリア教育に係る情報を積極的に発信する。(進路指導部)	A	・就業体験学習を実施することができた。3年生は特に進路決定に向け、夏季休業中にも特別就業体験を実施した生徒もいた。 ・進路決まりを先行し、進路に関する情報を保護者や職員に提供している。	A	・就業体験や職場見学、履歴書の作成、面接指導など就労に向けた支援を適切に行い、進路先が100%決定した。 ・担任、保護者、関係機関と連携し、生徒の希望に合う就業体験を実施できた。生徒自身の進路選択を尊重し、卒業後の進路を実現できた。 ・進路決まりを通じて進路に係る知識や情報を提供できた。今後もニーズにあった情報を発信したい。	
		○聴覚障害教育における指導の充実のために、年20回以上の職員研修を行い、実践的な指導力の向上を図る。	・各学部研究・研修(月2回)、新任者研修会(年13回)、指導力向上研修会(年2回)、その他全体研修会や手話研修会等を実施する。(研究研修部)	A	・新任者研修(公開講座を含む)は概ね良い評価を得た。手話研修会は入門・応用1回、全体1回実施した。	A	・3回の障害理解研修会等により、聴覚障害教育の専門性の向上につとめることができた。 ・指導力向上研修会では、コロナ感染拡大のために、校内での研修、オンラインの研修になったが、授業づくりや指導の工夫につながるような研修が行えた。	
	○夢や目標の実現に向けたコミュニケーション能力や読み書きの力の向上	○日記等の記述する活動を通じて、言語力育成を図る。(各学部)	B	・園に応じて、テーマやSWIHAの明確な記述指導や言語指導を行う。(各学部)	B	・日々の体験活動の中で、幼児への丁寧なことばかけを行ない、ことばの習得を図っている。 ・日々の日記や連絡帳の中での学習のふりかえりや授業中の文作りなどを重視し、その都度訂正などの指導を行っている。 ・日記やテーマ作文、日本語に関するワークシートなど、毎日の宿題や朝の時間を取り組み、文法や内容の指導を行った。	B	(幼)日常の保育の中で丁寧なやり取りを繰り返し行い、園に応じた方法で自分の思いを伝えるようになってきた。 (小)日記や授業のまとめなど様々な場面で書くことに慣れ、自信や意欲にもつながっている。日々の指導の積み重ねを今後も大切にしていきたい。 (中)日記や作文、日本語に関するワークシートなどに取り組み、語彙の拡充や日本語力の向上に努めた。 (高)各担任で日記指導を行った。就業体験発表会やスピーチの際に文章表現の指導を行った。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的な正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○幼児児童生徒が関係校との交流、及び卒業生等との交流を通して豊かな心を身につけるために交流年間計画100%実施を目指す。	・(幼)錦華幼稚園(年5回)、久留米聴覚特支学校(年1回)、からがらんど(年1回)。 ・(小)開成小学校(年2～3回)、久留米聴覚特支学校(年1回)、居住地域(希望者)との交流(年2回程度)、教育相談児との交流会(年1～2回程度)。 ・(中)難聴中學生との交流(年1回：ベストフレンドの会)、学校間交流(年2回)、久留米聴覚特支学校との交流(年1回)、地域との交流(年1回)。 ・(高)津洋南手話部・インター外部との交流(年5回)。	B	・錦華幼稚園との交流はリモートだったが、自己紹介をし、一緒に手話歌を歌うことができた。今後も直接の交流はできないが、リモートで行う予定である。 ・開成小学校との交流は今年度2学期にできれば直接交流を行う予定である。 ・久留米聴覚特別支援学校との交流は12月に実施予定である。 ・居住地域交流は今年度2名希望。授業への参加や手紙交換などの交流を検討中。 ・直接会って交流することはできなかったが、自己紹介カードの交換で交流を行った。2学期はリモートでの交流を検討している。	B	(幼)錦華幼稚園との交流は、リモートではあったが、5回実施することができた。また、職員が園に赴き、聴覚障害者についての啓発活動を行うことができた。久留米聴覚特別支援学校との交流は、幼児の実態を考慮し実施しなかった。からがらんどお話し会は、年1回だったが実施することができた。 (小)開成小学校の職員打ち合わせは、今年度も会は設けず紙面で確認した。各学年との交流は、2学期で2年ぶりの直接交流を行った。2年生は体育や園工の授業に参加し、集団での貴重な体験をすることができた。6年生は「時間ずつ々交流」に関心をもち、交流をもちたいと希望した。 ・久留米聴覚特別支援学校とも今年度は直接交流でき、よい刺激をもちたいと希望した。 ・居住地域交流の希望は2件。1年生は初めての交流で緊張も見られたが、楽しんでいった。6年生の交流では事前打ち合わせを行い、配慮事項等を伝えられたことで、交流校の児童に手話や筆談・身振り手振りを使ってコミュニケーションを取ろうとする姿が多くみられ、楽しく交流することができた。 (中)2学期の松橋中学校、3学期の久留米聴覚特別支援学校の交流もリモートでの交流を行った。お互いに相手校への配慮や伝え方、コミュニケーションの工夫をして交流し、充実した時間を過ごすことができたようであった。 (高)直接会って交流することはできなかったが、カードの交換や卒業生への記念品交換を行った。	
		○いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめ事案への対応(生徒指導・小中高・寄宿舎)	・児童生徒間の交友関係を日頃から注視し、問題に繋がらぬようトラブルを早期に発見し適切に対応する。(生徒指導・小中高・寄宿舎)	A	・学部や担任及び保護者との連携を密にしている。気になることは、早めに(その週)に会議等を用い話し合っており、解決に努めた。 ・6月に学校生活アンケートを実施し、トラブルの早期発見につながることもできた。トラブルに関しては学部全体で対応中である。 ・生徒の状況については、日頃から担任だけではなく学部全体や関係者と共有し、問題については対応するよう努めている。	A	(小)日頃から職員間での情報交換を心掛けた。学部会では毎回児童理解の場を設け、共通理解を図った。 (中)いじめアンケートで分かった事案について、話し合いの場をすぐに設けて対応し、寄宿舎と連携して指導を行った。家庭にも状況や報告し、経過を観察しながら職員や家庭との情報共有に努めた。 (高)学部内での問題は起きなかった。文化祭の発表に向けた話し合いや練習などをとおして、絆が深まった。 (生)定期的に学校生活アンケートを実施し、発覚した問題に対しては、学校全体で共有し対応することができた。 (舎)各種会議を活用して、共通理解のもと指導・支援にあたった。気になることは早めに対応して、学部等とも連携をはかり対応することができた。
		○「望ましい生活習慣の形成」	○新型コロナウイルス感染予防「新しい生活様式」を周知するため、各学部で保健指導を1回以上行う。	・学部と連携し、感染予防のための手洗いや日常生活の留意点についての保健指導を実施する。(保健指導部)	A	・毎日始業前に健康観察表で体温・体調を把握し、早期対応に努めている。 ・アルコール消毒、泡ハンドソープを校内全ての教室等に配置し、感染予防につなげている。 ・コロナ感染予防ポスターを作り、各担任より保健指導を行った。	A	・毎朝健康観察を行い、担任と協力して体調不良等の早期対応ができた。 ・アルコール消毒、温度計、CO <sub>2</sub> 計等を各教室に配置し、校内の環境改善に取り組み、感染予防を行った。 ・学部や生徒会保健部と連携し、コロナ感染予防の保健指導を全学級で行った。
	○効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○早期発見・教育につなげるために、乳幼児のきこえやことばに関する相談や問い合わせ件数前年比120%を目指す。	・HP更新、教育相談案内チラシの配布 ・県市町の母子保健事業との連携拡充 ・県保健福祉事務所主催の研修会等で保護者や各関係機関への周知活動(支援部)	B	・母子保健事業や会議等が、感染症予防対策のため中止になっており、直接会っての連携が難しい。電話も、今は控えている状況である。 ・鳥栖市で母子健康包括支援センターが立ち上がっているため、連携を図りたい。	A	・感染症の状況が落ち着いた時に、会議や研修会が再開され、会の中で顔を合わせて話してきたことで、その後の連携も取りやすくなった。 ・唐津市は、医療機関や保健師との情報交換の場を設けることができ、本校への相談も増えた。	
●地域支援	○佐賀言難聴部会と連携した公開講座や研修会において、「聴覚障害教育への理解が深まった」と回答する受講者が80%以上を目指す。	○聴覚言難聴部会と連携した公開講座や研修会	・難聴学級担任へ定期的にアンケートを取りニーズを把握 ・内容等の精選を行い、計画的に実施 ・公開講座や研修会における評価の実施(支援部)	B	・佐賀言の研修会が中止や延期になっているため、地域の難聴学級の先生方へのニーズの把握は不十分だと感じる。 ・地域へ向けた公開講座については、アンケート等の結果から概ね好評を得ている。情報を得たいというニーズに更に応えていけるような工夫が必要。	A	・2学期は、研修会が再開されたため、難聴学級の先生方とも直接会って話をすることができた。学校によってニーズは様々だが、佐賀言研での情報交換や本校の公開講座等への参加希望は多く、聴覚障害教育についての情報提供の必要性を強く感じる。新しく担当される先生方も多いので、研修会だけではなく、紙面やHP等での情報提供についても検討していきたい。	
		○巡回相談・教育相談等をきっかけに、継続的な支援へつなげる学校を増やす。	・依頼校のニーズに対応した学部・教科担当者によるチームでの支援の実施 ・園・学校などへの支援・助言後、その後の様子を伺い、必要に応じて支援・助言を継続する(支援部)	A	・公開講座や体験学習相談会などをきっかけに、巡回相談へつながったケースや、新規の相談から巡回相談へつなげたケースが増えている。これまでの巡回相談の実績や理解啓発への取り組みが成果を出せていると感じる。 ・今後、相談後の継続的な支援にも力を入れたい。	A	・巡回相談については、コーディネーター以外の職員にも協力してもらい、相談のニーズに対応することができた。 ・巡回相談の後に、公開講座や佐賀言での研修会等で声をかけたり、電話やメールで連絡をとったりして連携に努めた。そのうち、4校からは、実際に2回目巡回相談の依頼があった。新年度にスムーズに引き継ぐことができるよう、支援したい。	
		○業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・各種会議の精選、及び時間短縮(教務部)	A	・毎月実施していた職員会議を学期に1回程度とし、会議のない月は書面報告にした。 ・夏季休業中に4日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。	A	・定例の職員会議を見直し精選した。精選した会議は学部会や紙面報告等で対応した。 ・学校閉庁日や定時退勤推進日を設定したことで、働き方改革の推進を行うことができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○各担当業務の情報共有を強化し、校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	○学習用教材の整理、蓄積 ・共有フォルダ等を利用し、様式、業務データの共有を行い、効率的な業務遂行に努める。また現状に即した取り組みを検証し、常に校務を見直す。(教務部)	A	・校務システムで公用車の予約や「掲示板」「メッセン」機能で情報共有し、効率的に業務環境を整えた。 ・学校評価アンケート結果を各学部と分掌部で共有し、問題点の改善を図った。	A	・校務システムを有効に活用し、校務や教材の共有化を図ることで、効率化が図れた。 ・学校評価アンケート結果を各学部と分掌部で共有し、問題点の改善を図った。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICTを活用した教育の充実	○各教員が学習者の理解を促すように、電子黒板・学習用PCを効果的に活用する。	・各教員の効果的な授業実践のサポートに努め、操作方法や先進校での実践事例を紹介する。(図書情報部)	A	・各教員が、生徒の学習の理解に応じて、様々な教育活動の場面でほぼ100%電子黒板・学習用PCを使用することができた。授業のサポートは随時実施できている状態である。	A	年間を通して、教育活動やさまざまなリモート交流の場面でICT機器を活用することができた。
		○保護者支援の充実	○日々の連絡や保護者会や研修会等の開催を通して意思疎通を十分に図る。(各学部・寄宿舎)	・家庭との連絡帳やおたよりの配布を継続する。(各学部・寄宿舎) ・学期毎の保護者会や研修会、個人懇談会を実施する。(各学部)	A	・生活の状況について、お便りや連絡帳を活用してお知らせしている。家庭からの連絡事項は、引き継ぎを活用して共有している。全職員での支援を心がけている。 ・クラス便り、学部便り、ことばの広場、保護者手話学習会、ふれあい学級等により理解と協力を得ている。7月に対象幼児1名の支援会議を実施し、よりよい支援につなげている。 ・毎学期末には学級懇談を実施することで、学校・家庭双方の状況について共通理解し、今後の指導について確認している。	A
○開かれた学校づくり	○学校情報の公開	○保護者を始め地域や一般の方々へ本校の情報を発信する。	・おたよりとあわせて保護者への情報伝達を充実する。(教務・支援) ・HPを毎月更新する。(図書) ・体験学習・相談会や学校公開を実施し、案内を配布する。(教務・支援)	B	・学校だよりを1学期に発行し、保護者・地域に配布し、またHPに掲載した。 ・体験学習・相談会はコロナ感染症対策を取った上で、開催することができた。 ・4月から7月までは1回の更新はできないこともあった。学校行事をできるだけ早く情報発信することが難しいこともあった。	A	(教)学校だよりを年3回発行し、保護者や近隣地域、県内学校関係へ本校や聴覚障害者についての情報を発信することができた。 (支)お便りの発行ができなかった時期もあったが、今年度、学期に1回は発行することができた。 (図)行事予定やほかの部からのお知らせ等は早急に更新できたが、学校行事の写真の更新は難しかった。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、修学旅行等中止した行事もあったが、昨年開催できなかった学校公開、文化祭等は、実施形態を工夫することで実施できた。</p> <p>・進路指導においては、高等部6名の就業及び中学部の1名の生徒については外部の高校への進学など、個々の生徒の希望の実現をサポートできた。</p> <p>・生徒指導については、概ね満足できる。特にいじめについては、アンケート等により早期に発見し、適切な対応ができた。今後も、児童生徒が適切なコミュニケーションをとることができるよう、指導していきたい。</p> <p>・職員間での情報共有を密に行うとともに、保護者と連絡帳を使って家庭と連携をとると、幼児・児童・生徒を学校全体でみていく雰囲気や協力を得ている。7月に対象幼児1名の支援会議を実施し、よりよい支援につなげている。</p> <p>・研修会の外部公開、巡回相談等に加え、本校が実践している聴覚障害教育や相談業務について、市町の教育・福祉機関を訪問し担当者へ説明を行うなど、本校が担っているセンター的機能の周知に努めた結果、新規の相談が増加した。次年度は、医療機関との連携を深めていきたい。</p> <p>・今年度コロナ禍の状況において、新しくリモート交流等に取り組んだり、行事や会議等を削減したりした。次年度は、それらの検証に基づき、研究・研修、教科指導・進路学習、本校の情報発信及び地域支援の充実に取り組んでいきたい。</p>
----------------	--